

病弱教育支援だより

発行日；平成28年12月15日

病弱・身体虚弱特別支援学級設置校訪問を終えて

秋田県立秋田きらり支援学校
病弱教育アドバイザー 進藤 忠雄

秋田県の病弱教育を充実させることを目的とし、県内病弱・身体虚弱特別支援学級設置校22校（小学校11校、中学校11校）と25市町村教育委員会を訪問しました。

在籍している27名の児童生徒は、心臓疾患や糖尿病、甲状腺機能障害、脳脊髄液減少症、白血病、適応障害等々、多種多様な病気を抱えながらも、それぞれがほとんど欠席することもなく元気に登校し、楽しく学校生活を送っていました。真剣に学習に向かっている姿がとても印象的でした。これは、各学校が対象児童生徒の病気の理解に基づいて合理的配慮の提供に努めているからと考えられます。もちろん市町村教育委員会の後押しがあつてのことです。

病気療養児は、生後間もなく大きな手術を何回も受れたり、つらい治療に耐えたりしてきたからこそ、学校に通学できることがうれしく、友達とのつながりを実感しながら勉強もがんばることができるのだらうと思います。

「病気によって、患者となり子どもでなくなる。教育によって、患者から子どもにもどる。」という言葉があります。病気療養児にとって、学校や教師はとても大きな存在であり、毎日の学校生活は健康回復への意欲を育てることにつながっています。

一方で、病気やけがで治療や入院している児童生徒の大多数は通常の学級に在籍しているという状況があります。平成25年度の文部科学省の調査では、病気やけがで30日以上長期入院している児童生徒が6,300人おり、その4割に当たる2,520人が在籍校による学習指導が行われていないという実態が明らかになりました。平成27年度「秋田県の学校体育・学校健康教育資料」によると、県内では1,676人いる長期欠席者（30日以上）のうち、病気やけがを理由とするものが329人で約2割を占めていることがわかります。

「病気について配慮が必要な子どもはさまざまなところにいる」「病気を抱えている子どもたちに対して、教育は病気が治ってから受ければよいものではない」「病気の時でも教育はできる」「病気の時だからこそ、行うべき教育がある」のです。多くの病気療養児への適切な学習支援や心のケアについては、通常の学級の担任の先生方を含め、それぞれの学校が責任をもって行わなければなりません。訪問を終えた今、通常の学級に在籍する病気療養児への支援の充実が、最も重要な課題の一つであると考えています。

今年度、早い時期（6月～8月）にすべての設置校を訪問することができ、学級の現状や教育的ニーズなどを把握することができました [訪問率100%]。また、多くの学校で授業参観や情報交換等の機会を設定してくださり、児童生徒の病気等の状態や教室環境、指導・支援の具体を知ることができました [授業参観設定率 72.7%]。

ご多用の折にもかかわらず、快く訪問を受け入れてくださった皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。（ゆり支援学校道川分教室 教頭 高橋 斉）

第1回秋田県病弱教育研修会（兼）病弱・身体虚弱教育担当教員研修会

平成28年7月28日（木）9:00～12:00、秋田きらり支援学校を会場に、第1回秋田県病弱教育研修会（兼）病弱・身体虚弱教育担当教員研修会を開催しました。夏季休業中の開催であったため、小・中学校並びに特別支援学校職員等約120名の参加を得ることができました。

講演では、秋田大学教育文化学部准教授の藤井慶博先生から「病気の子どもの支援～インクルーシブ教育の視点から～」と題してお話をいただき、本県の病弱教育の現状と課題を再認識する良い機会となりました。また、合理的配慮の視点から考えられる必要な支援について、具体例を挙げながら分かりやすくご説明いただき、理解を深めることができました。

参加者アンケートには「分かりやすく、実践的で参考になった。」「現場が知らないこと、知らなければならないことを易しく教えていただいた。」「自立活動での指導の内容について、どのように進めたら良いのか分からないことが多くあったので、今回の講演を参考に授業づくりをしたい。」などの感想が数多く寄せられました。

講演終了後の情報提供コーナーでは、秋田大学の学生の皆さんによるスカイプ（PC）を利用した二元中継やゆり支援学校道川分教室職員によるハングアウト（iPad）を利用した三元中継、秋田きらり支援学校職員のICT活用の実践紹介・資料提供を行いました。興味・関心をもって質問する参加者の姿が多く見られました。



[↑ 情報提供コーナー]



[↑ 相談コーナー]

第2回 秋田県病弱教育研修会（兼）病弱・身体虚弱教育担当教員研修会のご案内

次のとおり開催いたします。12月22日（木）まで参加申込を延長受付します。
午前のみ・午後のみ参加も可能ですので、気軽にお申し込みください。

- 日時 平成29年1月6日（金） 10:00～14:30
- 会場 秋田県立秋田きらり支援学校
- 内容等 事例発表① 「心身症等の生徒の理解と支援について」
【午前】 青森県立浪岡養護学校 教諭 野呂 綾子 先生
教諭 玉田 由美 先生
※不登校や心身症等を抱える高等部生徒に対する「トラウマチェックリスト」「子どもの行動チェックリスト」等を活用した実態把握及び生徒個々に応じた指導・支援の実際について紹介
- 事例発表② 「院内学級の取組」
【午前】 秋田県立秋田きらり支援学校 教諭 臼井 道和 先生
- 講演 「子どもが主体となる教育計画と実践をめざして
～手厚い支援を必要としている子どものための情報パッケージ『ぱれっと（PALETTE）』の活用～」
【午後】 国立特別支援教育総合研究所
研修事業部総括研究員 齊藤由美子 先生